

中日ニュース

シネスコ版

高知新聞ニュース 13349

新豊岐新聞ニュース 13177

平岡新聞ニュース 13190
不作ほほ丘く平岡山地
云喜・高野 1500円

38.11.21

No. 514

特集
ナラアツア

一、二つの惨事の招いたもの

三井三池、三川鉱の炭鉱事故は死者四五二名を出すという戦後最大のものだった。しかも機械化が進み、保安設備も完備している。わが国の最優秀炭鉱で、もつともせいしやすいといふ炭ジン爆発で、最大の事故が起ったという事実。これはいつたなにを物語るものだろうか。三池炭鉱の生産能率は急上昇しつつあり、十月は戦後開鉱以来の出炭記録を作っている。これは石炭合理化政策が予想以上に急ピッチで進められているからだろう。そういうところから石炭は需要に追つかなくなり、各炭鉱では逆に増産がはかられているという、炭ジンをすらコントロール出来なくなつた保安対策はこの増産、ひいては合理化に問題があることは明白である。

この三池は三十五年の大争議以来四十七人の死者を出している。

合理化以来災害率は増加しつつあるのだ。今度の事故で約三百名は一酸化炭素中毒でいまだ病院に臥せているのだ。わずかばかりの保証、すぐやつてくる生活苦、死んだ者も、残された者も炭住に住む者は悲惨である。いま一度、合理化なるものを考へなおす時ではなかろうか。

一六二人のいたましい死者を出した鶴見事故、悲しみの日からすでに十四日たちました。この大惨事に、国鉄では事故のきっかけとなつたワラ型貨車のせり上り脱線原因の徹底的研究にのりだしたのです。そして十八日には、問題の車輛にテレビカメラや測定器を取りつけ、事故現場を中心とする新鶴見—新子安間で惨事の夜そのままに列車走行テストが行なわれたのです。テストの結果、貨車はカーブで車体がかたむきせり上り脱線したのではないかと見られています。

一瞬のうちに大惨事をひき起した鶴見二重衝突事故は無理なダイヤからくる「それ遅いの恐怖」をさまざまとみせてくれました。

東京だけで五百十萬といわれる通勤者、大都市の人口の重圧が国鉄の軌道にのしかかっているのです。未曾有の高度経済成長をみせたわが国に、悲しいことは労働者の通勤や、労働の安全といった国民の生活にとっても基本的なことが忘れられていたのではないでしょうか。

6330円